

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年1月19日作成)

小委員会名	照明環境規準改定小委員会	主査名：吉澤 望 就任年月：2023年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)	委員長名：大岡龍三 主査名：秋元孝之
設置期間	2023年4月 ～ 2025年3月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>光環境運営委員会傘下の屋内照明環境規準改訂WG(2022)では、光環境分野の環境規準の新たな枠組みの中で、『日本建築学会環境基準 AIJES-L0002-2016 照明環境規準・同解説』の内容のうち、屋内照明環境規準として残すべき内容と個別の照明環境要件として新たに策定する規準に盛り込むべき内容を検討した。この検討結果を受けて、本小委員会では、AIJES-L0002の改定版を作成、出版する。</p> <p>初年度：AIJES-L0002改定原案の作成・査読 シンポジウム開催・刊行</p> <p>2年度：講習会の企画・開催</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：吉澤 望(東京理科大学) 幹事：加藤未佳(日本大学)、望月悦子(千葉工業大学) 委員：秋月有紀(富山大学)、大井尚行(九州大学)、大江由起(滋賀県立大学)、岡本洋輔(大同大学)、奥田紫乃(同志社女子大学)、古賀靖子(九州大学)、小崎美紀(東京大学)、鈴木広隆(神戸大学)、原直也(関西大学)、三木保弘(国土技術政策総合研究所)、宗方 淳(千葉大学)、山口秀樹(国土技術政策総合研究所)</p>	
設置WG (WG名：目的)		
2023年度予算	150,000円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：

項目	自己評価
委員会開催数	4回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 当初の計画通り委員会を4回開催して、刊行に向けた作業を進めた。 委員会内ドラフト原稿を完成させた。 次年度に開催するシンポジウムの企画を検討した。
委員会活動の問題点・課題	特になし

*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価 (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>空間を使用する人間の視覚要件を再整理し、建築計画の初期段階から屋内光環境についてどのように検討・計画を進めるべきか、従来の光環境計画・設計よりも一歩進んだ設計フローを示し、また、輝度設計に基づく基準値を示すなど、最新の内容を規準原案に盛り込むことができた。</p> <p>当初の計画より約半年、スケジュールが遅れているが、2024年度中にパブリックコメントを募集し、意見を集約した上で、FDISの完成を目指す。</p>

- 総合評価は4段階 (A>B>C>D) にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者の評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。
- 提出対象年：設置期間4年の場合は、2年目「中間年度評価」、4年目「最終年度評価」（1年目・3年目不要）
設置期間3年の場合は、2年目「中間年度評価」、3年目「最終年度評価」（1年目不要）
設置期間2年の場合は、1年目「中間年度評価」、2年目「最終年度評価」
設置期間1年の場合は、1年目「最終年度評価」